

ソフトボール競技の魅力に関する考察 — 競技関係者による一般人に対する競技特性のアピール —

森上 幸夫*¹ 西村真由子*² 久保田豊司*³

Consideration of the Attraction of Softball — Softball's appeal to ordinary people —

Yukio Morikami*¹ Mayuko Nishimura*² Toyoshi Kubota*³

キーワード

ソフトボール、競技の魅力、魅力の4要素、ルールの認識

目 的

ソフトボール競技においては、これまでにルール変更が度々おこなわれている。最近では国際試合の増加にともなって、国際競技組織のルール変更があると日本の競技組織でも速やかに変更する傾向がある。その変更点を要約すると、試合進行の迅速化、競技者の安全性の確保、そして試合の活性化であると言える。

また、他のスポーツ競技と同様に、競技関係者以外からの支持を得るためにもルール変更が導入される場合がある。ソフトボールの競技経験の無い人が試合を観戦したり、競技を始めたりすることが容易になるように、つまり競技の普及を意図してソフトボール未経験者がソフトボール競技に「触れやすい」もしくは「馴染みやすい」ようにルールを分かりやすくするのである。

このような競技ルールの変更は、その理由が国際化であれ普及であれ、競技そのものが元来持っている好ましい特性を弱めたり否定したりするものであってはならない。むしろ、その好ましい競技特性が維持されるか強調されるかといったルール変更が採り入れられるべきであることは疑う余地がない。

では、ソフトボール競技が持つ好ましい競技特性とはいかなるものであろうか。競技関係者はその特性を明確に意識しているのだろうか。また、競技関係者以外はソフトボールを観戦したときにその特性を理解しているのだろうか。そして、初めて競技した者はその特性にすぐ気づくことができるのだろうか。

以上の疑問について、まずソフトボール競技関係者が関係者以外に伝えたい「ソフト

*1 もりかみ ゆきお：大阪国際大学基幹教育機構教授 (2019.7.4受理)

*2 にしむら まゆこ：大阪国際大学基幹教育機構助教

*3 くぼた とよし：大阪国際大学人間科学部教授

ボールの好ましい特性は何か」ということに焦点をあて、検討する作業が必要である。競技関係者は自らに関わる競技のどこに魅せられているのかを明らかにすることにより、今後ソフトボール競技の醍醐味をアピールする材料や方法が見いだせる可能性があると考えられる。

さて、来る2020年に開催されるオリンピック・パラリンピック東京大会にて、ソフトボールは野球とともにオリンピック競技として実施される。野球は国民的な人気をもつことから人々の興味をひくことは言うまでもないが、一方で、国際的に高水準の実力をもつ日本の女子ソフトボールも2020東京大会において注目を浴びることは間違いない。具体的に言えば、代表チームや特定の選手がマスコミに取りあげられ、試合の経過や結果に多くの人々が一喜一憂すること、そしてメダル獲得への期待が高まることは容易に想像できる。

これを機に、競技関係者としてはソフトボールの一般への普及を推進したいと考えるのは当然であろう。一般への普及とは、競技人口が増えることであり、また試合を直接に観戦したり放送を視聴したりする人が増えることである。しかも、一般への普及が一時的ではなく恒久的な形ですすむのが理想である。

しかしながら、これまでのオリンピック開催時においては、深澤（2009）が述べるとおりマスコミによるソフトボール競技の取りあげられ方が集中的であったことは事実である。試合展開が劇的であったりプレイがスリリングであったりすることから、それまで競技に関心をもたなかった一般人がすぐさま試合にひきつけられるのも集中的な報道の要因であろう。

これらの報道とあいまって関心を高めた一般人が継続的に競技を観るかということ、ソフトボールの試合進行やルールの詳細が野球と異なるため、観戦に際して戸惑いをもつことが多々あり、持続的な関心がもてないという状態になる。したがって、ソフトボールに対する一般的な関心は一時的な現象になっていたと言わざるをえない。そうは言うものの、ソフトボールが人々をひきつける要素を持つという事実は明らかであり、この点についてあらためて議論するべきではないかと考えられる。

そのような観点で言えば、西村・久保田（2018）は、ソフトボール競技の普及とルールに関する認識について考察するなかで、競技の普及をすすめるにあたりソフトボールの魅力に関する検討の必要性を述べている。おそらく、ソフトボールがもつ魅力について競技関係者は実感しているし、一般人は試合を観ることで短時間のうちに体感することができる。そういった魅力があるのを分かっているからこそマスコミが取りあげる対象としてソフトボールに着目するのであろう。ただ、その魅力の本質を十分に把握していれば、一時的かつ集中的ではなく、安定的かつ継続的な取りあげ方にもつながるのではないだろうか。何よりも競技関係者においては、マスコミが取りあげるか否かとは別に、競技の普及を図る場合、ソフトボール競技の魅力の本質を捉え、それを一般人に分かりやすく伝える作業は必須と言える。

そこで本研究では、ソフトボール競技関係者に対して「一般の人々に対して競技の魅力をどのように伝えるのか」について尋ね、その回答の内容を分類・整理することを試み

て、それらが競技ルールへの認識とどのように関連するのかについて検討する。そのうえで、ソフトボール競技関係者が一般人に対して発信したいソフトボール競技の魅力の本質について考察することとする。

方 法

ソフトボール競技関係者は一般の人々に対して競技の魅力をいかに伝えればよいかを検討するために、以下のとおり質問紙調査を実施した。

調査協力者：ソフトボール準指導員養成講習会第3回講義（主催：日本ソフトボール協会、会場：大阪府堺市立堺高等学校）の講習受講者68名のうち回答済み質問紙を提出した67名が調査協力者となった。

調査手続き：講義前の時間を用いて、講習会受講者に質問紙調査に対する協力を依頼して了承を得た受講者に回答することを求めた。所要時間は約20分であった。

調査時期：2017年12月9日（土）に調査を実施した。

調査項目：質問紙は、以下の項目で構成されている。

- 1) 調査協力者が‘選手’、‘コーチ’、‘監督’などのいずれの立場にあるかといった「競技の中での立場」の選択肢（複数回答可）
- 2) 所属するチームが‘男子’、‘女子’、あるいは‘クラブ’、‘実業団’、‘大学’、‘高校’などのいずれの種別への登録かといった「チームの登録種別」の選択肢（複数回答可）
- 3) 競技へのかかわりが‘5年未満’、‘5年以上10年未満’、‘10年以上’などいずれに該当するかといった「競技にかかわっている期間」の選択肢
- 4) 一般の人々に「ソフトボールをもっと知ってもらい必要がある」と思うかについて‘そう思わない’、‘わからない’、‘そう思う’のいずれかに回答する3段階評定
- 5) 一般の人々にとって「ソフトボールのルールは難しい」と感じるかについて‘そう思わない’、‘わからない’、‘そう思う’のいずれかに回答する3段階評定
- 6) 「ソフトボールの普及のために現行ルールを変えた方がよい」と思うかについて‘そう思わない’、‘わからない’、‘そう思う’のいずれかに回答する3段階評定
- 7) 「ソフトボールの魅力一般の人々に伝えるための説明」についての自由記述
- 8) 「ソフトボールの魅力を活かすためのルールの変更・追加」についての自由記述
- 9) 「一般の人々と自分が分かりやすく楽しめるルールの変更」についての自由記述

結果と考察

1. ソフトボールの魅力伝える説明内容

ソフトボール競技関係者が「ソフトボールの魅力を一一般の人々に伝えるための説明」について自由記述で回答した内容を次のとおり整理した。回答内容の中で頻出した用語、意味が同様の言葉・文句などを抽出し、吟味したうえで、それらの度数を算出した。その結果は表1に示すとおりである。

まず、「野球よりもスリルがある」、「野球と比べて展開が早い」、「ソフトの方が野球よりもチームの一体感がある」といったように「野球との比較」で魅力を述べるのが最も頻度が多かった。次に、「スピーディな動きは見逃せない」、「投球の体感スピードがすごい」、「走攻守すべてにスピードが求められる」といったように「スピード感」があることを魅力としてあげているのが2番目に多かった。そして、「中高年でもできる」、「男女ともに楽しめる」、「誰でも気楽にプレイできる」といった「年齢性別に無関係 (Regardless of age and gender)」であることを魅力とする見方が3番目に多かった。また、「ボールが大きいので打ちやすい」、「塁間や球場が広すぎない」、「個性を活かせる距離や広さ」といった「適度なサイズ感」であることを魅力にあげるのが4番目に多かった。

このように、競技関係者が一般人に対してソフトボールの魅力を発信する内容は、野球との比較、スピード感、年齢性別に無関係、適度なサイズ感といった4つの要素に関連した記述であることが分かった。これらの要素について、個々の記述内容を詳細にみていくと、競技の魅力は大まかに2つのまとまりとして捉えることができる。第一のまとまりは、野球との比較、スピード感の要素を含むまとまりで、勝負にこだわるうえで避けては通れない競技特性である。このまとまりの記述内容があらわしているのは「隙を見せずに機敏にプレイする緊張感がつまった競技」という魅力である。第二のまとまりは、年齢性別に無関係、適度なサイズ感の要素を含むもので、教育的側面や人間の成長面を含む競技特性である。このまとまりに関わる記述内容は「いつまでも、誰でも、仲間とともに、楽しめる競技」をあらわす魅力である。

表1 ソフトボールの魅力に関する記述の度数

魅力の要素	度数
野球との比較	35件 (52.2%)
スピード感	29件 (47.3%)
年齢性別に無関係	24件 (35.8%)
適度なサイズ感	22件 (32.8%)

※67名中の回答人数、複数回答あり

2. ソフトボールの魅力の要素別にみた競技ルールへの認識について

西村・久保田（2018）は、競技関係者におけるソフトボール競技の普及とルールに関する認識について次のような結果を示している。競技関係者による「一般人にとってソフトボールのルールが難解」といった項目への段階評定の回答と「ソフトボール普及のためルールを変更」といった項目への段階評定の回答の間に有意な正の弱い相関関係がみられた ($r = .322, p < .01$)。このことは、一般人にはルールが難しいと認識しているほど、一般人への普及のためにはルールを変更するという認識があるということである。ただ、この両者の認識の関係は決して強いわけではなく、弱い関係をあらわしているにすぎない。

ここで、「一般人にとってソフトボールのルールが難解」の項目と「ソフトボール普及のためルールを変更」の項目の関連性について、先に分類したソフトボールの4つの魅力の要素それぞれを述べたか述べていないかにより、その程度に違いが見られるかを検討するために相関分析を実施した。その結果は、表2のとおりである。

ソフトボールの魅力の要素別にみると、まず野球との比較の記述がある場合は、競技のルールが難解という項目と普及のためにルール変更という項目との間に有意な正の中程度の相関関係がみられ、野球との比較の記述がない場合は、両者の項目間に有意な関係がみられなかった。つぎに、スピード感の記述がある場合は、両者の項目間に有意な正の中程度の相関関係が示され、その記述がない場合は、両者の項目間に有意な関係が示されなかった。そして、年齢性別に無関係の記述がある場合は、両者の項目間に有意な正の中程度の相関関係が示され、その記述がない場合は、両者の項目間に有意な正の弱い相関関係が示された。最後に、適度なサイズ感の記述がある場合は、両者の項目間に有意な正の中程度の相関関係がみられ、その記述がない場合は、両者の項目間に有意な関係がみられなかった。

表2 ソフトボールの魅力の要素別にみた競技ルールに関する項目の関連

		「一般人にとってソフトボールのルールが難解」と「ソフトボール普及のためルールを変更」との関連性
野球との比較	記述あり (35名)	.414 ($p < .05$)
	記述なし (32名)	<i>n.s.</i>
スピード感	記述あり (29名)	.434 ($p < .05$)
	記述なし (38名)	<i>n.s.</i>
年齢性別に無関係	記述あり (24名)	.461 ($p < .05$)
	記述なし (43名)	.313 ($p < .05$)
適度なサイズ感	記述あり (22名)	.499 ($p < .05$)
	記述なし (45名)	<i>n.s.</i>

これらの結果と先行研究の結果をあわせて考えると、ソフトボール関係者の競技ルールへの認識については、その関係者が有する競技の魅力の要素を加味して検討する必要があると言える。それは、関係者が競技の魅力を一般の人々へアピールするとき、4つの魅力の要素のいずれかでも言及することは「ルールの難解さ」と「ルールの変更」をある程度の強さで関係づけていることが示されたからである。このことから、ソフトボール関係者は自らが競技の魅力と見なしている要素を残したり活かしたりしつつ、一般の人たちに競技を理解してもらうために分かりにくいルールを変更するべきという意識があると推測できる。

3. ソフトボール競技の魅力に関する研究の今後

今回のソフトボール競技の魅力に関する考察では、競技関係者の回答より4つの魅力の要素を見だし、「集中力と緊張感に充ちた競技、全ての人の生涯に開かれた競技」について言及した。このことからソフトボールの魅力を換言すると、「プレイするのも観るのも瞬間や一瞬を楽しめる競技」であり「いつまでも誰もがオープンに楽しめる競技」であると考えられる。後者の魅力は、丸山（1994）が示すとおりレクリエーションの特性を表すものであろう。いずれにしろ、これらの競技特性にともなう魅力が一般に理解されているかを詳しく検討する必要がある。

また、西村・久保田（2018）が取り上げた競技ルールへの認識と競技の魅力の関連についても、今回の分析でより詳細な解釈が可能となった。これらについて、さらに別の視点からの分析と解釈による深い理解が求められよう。

くわえて、競技の魅力の4つの要素について詳細な検討が必要である。特に、関係者から多くの回答があった「野球との比較」に関する魅力を解明することで、ソフトボールの競技特性をさらに理解することが期待できよう。

参考文献

- 深澤弘樹『北京オリンピック報道における「物語」』、山梨学院大学経営情報学論集 第15号 155-170、2009年。
- 丸山克俊『レクリエーションとしてのソフトボール』、ベースボールマガジン社、1994年。
- 西村真由子・久保田豊司『ソフトボール競技関係者における競技の普及とルールに関する認識について——一般人に対する競技の理解促進の視点から——』、大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部紀要 国際研究論叢 第32巻第1号 217-223、2018年。